



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>
<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

戦いすんで 日が暮れて

統一地方選挙が終わりました。3月30日の県議選の告示から、4月22日の市議選投票日まで、1カ月近い選挙戦です。和歌山県の東の端から南の端まで、応援に行きました。さすがに、少しくたびれました。佐藤愛子さんの小説ではありませんが、まさに「戦いすんで日が暮れて」という感じです。

読者の皆さんには、結果をご報告しなければなりません。県議選では、公認・推薦合わせて6名の候補者のうち、4名当選。しかし、岩出市の現職の候補者と串本町議であった女性の候補者を落としてしまいました。大変な痛手です。一方で、和歌山市選挙区では3名全員当選し、しかも女性の公認候補の藤本まり子さんがトップで当選しました（写真は当選を祝うバンザイ中のショットです）。都市部では民主党も浸透し始めたのですが、郡部では、まだまだ力不足であることがわかりました。

後半戦では、和歌山市議選で、公認・推薦合わせて4名の候補者を立て、3勝1敗でした。新人の公認候補が2名いたのですが、結果として28歳の候補が最下位の40位ながら当選。26歳の最年少候補が落選しました。残念ですが、まだ若いので、捲土重来を期して再挑戦してもらいたいものです。橋本市議選では、公認・推薦合わせて2名共に当選を果たしました。特に、新人の公認候補は素晴らしい努力の結果、上位で当選できました。本人が民主党の「のぼり」を身体にくくりつけて、オートバイに乗って街宣車の前を走るのです。素晴らしい根性でした。見ていて、涙が出るような頑張りでした。

地方選挙を手伝い、結果を見てわかったことがいくつかあります。当落の境目は何か？ いろいろ原因はあるのでしょうか、「ともかくマメに歩いた人が勝ち、歩かなかった人が負ける」ということなんです。国政選挙や首長選挙も結局は同じことではないかと思いました。マニフェストや政策で政治家が選ばれる時代がきてほしいとは思いますが、今の実態は、一人でも多くの有権者に会って、握手をして顔と名前を覚えてもらってはじめて当選できるのです。



今回、和歌山市の選挙区で投票率が低かったのが気になります。県議会で約53%、市議会では約48%と5割を切りました。選挙期間中も皆さん、白けている様子でした。銀輪部隊と称して、自転車を連ねて走っても道行く人は感動してくれません。私が一人で、ママチャリにのぼりを立てて走っているときの方が、反応が良いくらいです。「どうせ、選挙だからでしょ」という目で見られてしまうのです。街宣車でウグイス嬢が候補者の名前を連呼するのもうるさいばかりで、何の効果もありません。その意味では、今の選挙の方法は時代遅れであることも明らかです。ブログやホームページの更新を認める代わりに、街宣車を禁止する法律改正をしたいものです。どうです皆さん、賛成ではありませんか？ 市民から「政治」がうさんくさく思われているから、関心がなくなっていくのかもしれない。落選して活動していて、「政治は感動だ！」ということに気がつきました。まだまだ私の努力が足りないのでしょうか。和歌山市民に感動を与え続けて、私の選挙では投票率を上げたいと思います。そしたら、結果もついてくるはずですよ。

